

第３戦はリタイアも、第８戦は５位でシーズン最終戦を終える

2026 年の SUPER GT は、第 3 戦マレーシアが延期となり、シーズンフィナーレとなるモビリティリゾートもてぎでの第 8 戦のレースウイークに組み込まれ、第 3 戦と第 8 戦が一日ずつ開催される変則的なレースウイークとなった。

そんなシーズン最終ラウンドに臨む D'station Racing だったが、第 7 戦オートポリスでチームの大黒柱である藤井誠暢がペナルティポイントを課され出場が叶わなくなってしまったことから、急遽長年 D'station Racing でスーパー耐久を戦っていた近藤翼を招聘。チャーリー・ファグとコンビを組み臨むことになった。

そんな第 3 戦／第 8 戦のレースウイークは、11 月 6 日（金）に設定された専有走行で幕を開けた。D'station Vantage GT3 は、ファグから近藤に交代、ふたたびファグがステアリングを握り、１分 48 秒 221 で 18 番手につけ初日を終えた。

一夜明けた 11 月 7 日（土）は、午前 9 時から第 3 戦の公式予選が行われた。今回は第 3 戦、第 8 戦をそれぞれワンデーで開催することから、予選は 20 分間の計時予選に。D'station Vantage GT3 はファグがアタックを担当し、１分 46 秒 188 というタイムを記録。これまでもてぎはあまり良い結果が残せていなかったが、８番手と好グリッドを獲得した。

約 4 時間のインターバルで迎えた第 3 戦の決勝は、午後 2 時にスタートが切られたが、予選 5 番手の車両がスタートで加速せず、後方集団は大混乱となった。D'station Vantage GT3 のスタートを担当した近藤は、うまく集団をかき分け、３コーナーで 5 番手に並びかけるが、イン側のグリーンに乗り接触。D'station Vantage GT3 は操舵にダメージを負いそのままリタイア、近藤にはペナルティが課される苦い結果となってしまった。

チームは 11 月 8 日（日）の第 8 戦に向け車両を修復し、午前 9 時 45 分から行われた公式予選に臨んだ。ふたたびファグがアタックを担った D'station Vantage GT3 は、 1 分 45 秒 750 を記録し 11 番手に。ふたたび上位をうかがうグリッドにつけた。

予選から約 3 時間 30 分後に行われた第 8 戦の決勝レースは、ふたたび近藤がスタートを担当した。落ち着いてスタートを決めた近藤は、タイヤのピックアップに悩まされつつも、上位陣に食らいつきながらレースを進めていく。GT300 クラスでは、16 周あたりから上位陣も続々とピットインを行い、タイヤ無交換作戦を採っていくが、近藤は 29 周まで走りピットインした。

ここで D'station Racing は、これまで D'station Vantage GT3 とダンロップタイヤの組み合わせで一度も試したことがない、タイヤ無交換作戦を敢行しライバルたちに対抗していった。この作戦が功を奏し、近藤から交代したファグはレース後半７番手につけ、激しいバトルを展開していた３番手争いの集団に追いついていった。

このバトルのなかで接触を喫した #87 ランボルギーニを 41 周目にかわしたファグは、さらに前を走る #56 GT-R を追いつめていく。ただ、タイヤ無交換作戦の影響もあってか、一時は #56 GT-R のテールまで追いつくも、なかなかオーバーテイクに持ち込むまでには至らなかった。

結果的に、ファグはそのままチェッカーを受け、D'station Vantage GT3 は今シーズンの最終戦を５位という結果で終えた。あまり得意としていなかったもてぎでの上位入賞は、チームに新たな自信をもたらすことになった。

第 1 戦岡山でのポール・トゥ・ウインから始まった D'station Racing の 2026 年シーズンは、さまざまなドラマを経て終えることになった。ドライバーランキングでは、ファグが 8 位、藤井が 12 位、近藤が 33 位に。D'station Racing はチームランキング 8 位でシーズンを終えることになった。

2027 年は、タイヤがワンメイク化するなど、SUPER GT にとっても変革の年となる。D'station Racing は、さらなる高みを目指していく。

COMMENTS：

SUPER GT



Team Owner：Satoshi HOSHINO

シーズン最終戦で、藤井選手が出場できないまさかの週末となってしまいましたが、藤井選手もチームをサポートしてくれて、一丸となって第３戦／第８戦に臨みました。２戦ともファグ選手が予選で速さをみせてくれて、あまり良い結果が残せていなかったもてぎで上位でレースを戦うことができました。第３戦ではスタート直後のアクシデントでリタイアとなっていましたが、第８戦では近藤選手、ファグ選手とも素晴らしいレースをみせてくれたと思います。無交換作戦を採ったエンジニアたちも良い判断をしてくれましたね。今季は開幕優勝と良いすべり出しでしたが、なかなかシーズンを通して良い結果を残すことは難しいですね。今年も応援ありがとうございました。



Director：Kazuhiro SASAKI

今週は第３戦、第８戦が一日ずつ開催されるスケジュールですごく忙しい週末でしたね。第３戦では接触もあったので、メカニックも本当に大変だったと思います。みんなが頑張ってくれた結果が第８戦の５位に繋がったと思うので、チームを誇りに思っています。今回は藤井選手が出場できませんでしたが、チームをしっかり支えてくれましたし、近藤選手もファグ選手も全力を尽くしてくれました。第８戦ではタイヤ無交換作戦を初めて行いましたが、レース後半のファグ選手の走りは素晴らしかったですし、表彰台には届きませんでしたが、これまで良い思い出がなかったもてぎで５位という結果は良かったと思います。来年もまた優勝目指して頑張っていきたいですね。



Supervisor：Tetsuya TANAKA

今シーズンもいろいろなことがありましたが、入賞で最終戦を終えることができました。今季は優勝をはじめ多くのポイントを獲れるレースもありましたが、一方で無得点となるレースもありました。その中で、今季最終戦でタイヤ無交換作戦をやり遂げたりと、チームとしての力を発揮することができたのではないかと思っています。一方で、チャンピオンを獲得することができなかったということもまたチーム力だと思っています。オフシーズンにしっかりとチーム力を高めたいですし、来シーズンからタイヤはワンメイクになります。きちんと対応してまた力強いチームを作っていきたいと思います。最終戦も本当にたくさんの方に応援いただき、うれしく思っています。



Driver：Tsubasa KONDO

まずは今回出場させていただいたことを D'station Racing の皆さんに感謝したいと思います。こういう機会を与えていただいたことはすごく嬉しかったのですが、第３戦では僕のミスもあって接触してしまい、クルマを壊してしまってチームにも迷惑をかけてしまいました。第８戦ではチームの作戦と、展開もうまく決まって５位でレースを終えることができました。第８戦はスタートも落ち着いてすることができましたし、レース序盤こそピックアップで苦戦してしまったものの、後半はチャーリー選手もすごく速かったですからね。入賞して、ポイントを得ることができましたし、チームにもしっかり貢献できたのではないかと思っています。



Driver：Charlie Fagg

今週はすごく浮き沈みが激しいレースウイークになったね。第３戦ではリタイアという厳しい結果になってしまったけど、表彰台を争うこともできた可能性もあったと思う。一方で、第８戦は良いレースをすることができた。５位という結果にはすごく満足しているよ。そして、今シーズンについて言うと、まずは D'station Racing のみんなに心からの感謝を伝えたいと思う。チームの全員がすごく頑張ってくれた。日本でのシーズンは３年目になるけど、いつも毎戦楽しんでレースに取り組むことができたからね。それに今年もたくさんのことを学ぶことができたと思う。ただ一方で悔しさもある。来年も優勝ができるような良いシーズンになることを願っているよ。









AMR DUNLOP ENKEI ENDLESS Challenge to the Future HRX

NEXUS GROUP